

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270101837
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム・滑石
訪問調査日	平成 19 年 10 月 26 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 20 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270101837
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム・滑石
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市滑石6丁目5-75 (電話) 095-860-6666

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年12月20日

## 【情報提供票より】(平成19年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 10 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	5.6 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <del>(単独)</del>	<del>(新築)</del> / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	160 円	昼食 410 円
	夕食	210 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

### (4) 利用者の概要(平成19年 9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 73 歳	最高 89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎北病院、そえじま歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立9年目を迎えるベテランのホームで、マンションが林立する中の1つのマンションの1階に位置している。周囲は静かであり、日中は玄関の鍵を開けて、センサーと職員の配慮、地域住民の支援で利用者は安全に暮らしている。  
職員は今の仕事に誇りと喜びを持っていると言い、笑顔が良く、離職者も少ない。ホームの理念「ゆっくり、たのしく、ありのままに」を実現するように、利用者本位の姿勢の声かけ、対応が素晴らしく、利用者も穏やかな落ち着いた表情で過ごしている。  
運営推進会議を開催するようになって、近隣の住民との交流が活発になり、様々な場面で協力を得ており、地域の中のグループホームとして更に発展しようとしている。福祉系の大学の実習も受け入れるなど、地域をはじめとする社会における役割も期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題となった運営理念の明記については利用者と一緒に掲示物を作成するように計画しており、衛生管理、危険物の保管についても改善策を見出し取り組んでいる。情報提供、地域との交流や市との連携は、運営推進会議メンバーの協力もあり、取り組みが進められている。また、家族への報告についても電話報告などで努力しており、職員の勉強会を強化し、研修にも参加し研鑽を深めている。感染予防・緊急時のマニュアル作りはこれから取り組もうというところであり、今後の努力に期待ができる。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、評価票を全職員に配布し、職員2人一組で取り組み、更にカンファレンスで全職員で話し合いながら行っている。その結果、自分達が行う介護の長所・短所が明確になり、改善に向けての具体策を検討し、実践につなげる努力をしている。</p>
	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は今年2月から開始され2~3ヶ月に1回、利用者家族、隣のアパートの管理人、民生委員、市職員をメンバーとして開催しており、協議内容は日々の活動報告や外部評価結果、消防訓練、前年度事業報告などである。軌道に乗っているとまではいかないが、アパートの管理人をはじめとする地域住民が避難訓練に自主的に参加してくれたりと、課題であった家族の懇談会が開けることになったりと、会議を開催したことによる効果が顕著に現れている。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時には必ず利用者の健康状態や日常の生活の様子を報告するようにして、その時に家族の意見や希望などを聞くようにしている。また、10月に開催した家族懇談会の際に、家族から、ホームを利用者の終の棲家とできないことに不安を覚えるという意見をもらうことができたので、今後の検討課題となっている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>買い物や散歩の時に、日常的に近隣の人達と挨拶を交わしており、利用者が一人で出かけた時に近所の主婦がホームまで連れてきてくれたこともある。運営推進会議をきっかけに隣の市営アパートの管理人や民生委員が訪ねてくれるほか、近くの中学校のブラズバンドの演奏会に招待され、利用者と職員と一緒に鑑賞に出かけたりもしている。また、ホーム側からは、餅つきに近所の人を招待しており、11月にはバーベキュー会に招待する予定もあり、地域との交流を深めている。また、福祉系の大学の実習を受け入れるなど地域との交流が始まり、これから連携が取れていくものと思われる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、地域密着型サービスの理念をよく理解したうえでホームの理念を見直し、従来の「ゆっくり、たのしく、ありのままに、その人らしく支援する」という分かりやすい言葉で表した理念を、地域密着を意識して継続することとし、職員にも周知している。		入院や外泊でホームを留守にしながらか居室を確保している場合の料金について、説明文に「介護報酬の6割分」とあるが、誤解を招きやすい文言であるため、入居についてのパンフレットや、重要事項説明書などについて再検討されてみてはいかがだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有のために、管理者と職員は朝のミーティングや申し送り、勉強会、利用者の変化があった時などに理念を確認しあい、気持ちを新たにしている。更に、職員の目に付く更衣室に支援方針を掲示し、職員が日々指針とするように配慮している。また、利用者や家族には、利用者の権利について説明するとともに理念も説明している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物や散歩の時に、日常的に近隣の人達と挨拶を交わしており、利用者が一人で出かけた時に近所の主婦がホームまで連れてきてくれたこともある。運営推進会議をきっかけに隣の市営アパートの管理人や民生委員が訪ねてくれるほか、近くの中学校のブラスバンドの演奏会に招待され、利用者と職員と一緒に鑑賞に出かけたりもしている。また、ホーム側からは、餅つきに近所の人を招待しており、11月にはパーベキュー会に招待する予定もあり、地域との交流を深めている。	○	地域との交流を深めるよう努めておられるので、ホームで発行する広報を地域に配布したり、町内会に加入して地域の一員として活動に参加したりしながら、地域の中のホームとして、更に発展されることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設9年目を迎え、管理者も職員も評価の意義をよく理解しており、前回の評価の結果を踏まえた取り組みも行っている。自己評価は、評価票を全職員に配布し、職員2人一组で取り組み、更にカンファレンスで全職員で話し合いながら行っている。その結果、自分達が行う介護の長所・短所が明確になり、改善に向けての具体策を検討し、実践につなげる努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年2月から開始され2~3ヶ月に1回、利用者家族、隣のアパートの管理人、民生委員、市職員をメンバーとして開催しており、協議内容は日々の活動報告や外部評価結果、消防訓練、前年度事業報告などである。アパートの管理人をはじめとする地域住民が避難訓練に自主的に参加してくれたり、課題であった家族の懇談会が開けることになったり、会議の効果が現れている。		議題についてどうしたらよいかと悩んでいるということであったが、大きな課題ではなくても、日常の支援の中での課題解決の場として会議を活用されてみてはいかがだろうか。数回の開催の中でも、メンバーはホームの活動に関心を示しており、効果が現れていることから、定期的に継続して開催されることが地域に開かれたホームとして発展し、サービスの質の確保につながることを期待できる。

長崎県 グループホーム・滑石

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議に参加してもらうことをきっかけに、事故報告書の書き方の指導を受けたり、運営などに関する細かいことで相談したりすることができるようになってきており、これからの連携体制に期待ができる。	○	現在、市の担当者やりとりをする機会が増えてきているので、徐々に交流、連携を深めることによって、質の向上に向けた取り組みに繋がれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には必ず職員が利用者の日常の生活の様子を知らせており、変化があった際は電話連絡を行っている。面会の少ない家族の場合は、毎月の利用料金請求書に併せて、利用者の健康状態や日常の生活の様子が分かる写真や手紙、行事案内、金銭立替分の明細書、法人の広報誌などを送付して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、職員から意見や希望を聞くようにしている。また、10月に家族懇談会を実施し、6名の家族に参加してもらい、和やかな雰囲気の中で、ホームが利用者にとっての終の棲家でないことへの不安を抱いているという思いを聞くことができた。家族には運営推進会議にも出席してもらっているため、今後会議などでの検討も考えており、家族の意見を反映させるような取り組みを充実していくことが期待できる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年には法人内の配置換えと退職者が1名ずつおり、運営推進会議で職員の異動はなるべく避けてほしいなどの意見があったので、母体法人に伝えている。やむを得ず退職や異動がある時は、家族には早めに伝えるが、利用者には混乱を示す人もいるので前日に伝えるなど、それぞれに合わせた対応を行うよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会には、出張としてなるべく参加できるようにしており、研修後は時間を設けて研修報告をして、新しい知識や技術を職員全員で共有するようにしている。ホーム内でも月に1回勉強会を行っており、勉強会を行うに当たり、職員に問題提起してもらいテーマを決め、関連図書を読んでおくなどの予習を行い効果的な勉強会が出来ている。4～6月に業務の細かい点の見直しを行うとともに、6月には感染症予防について勉強会を行った。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会には参加しているが、グループホーム間で交流する機会はなく、これまでも職員は他のグループホームへの興味を示しており、情報を捉えて参加したいと考えている。	○	他のグループホームを見学することから始めて、ネットワークづくりや研修会への参加で、更にレベルアップされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでは小規模デイサービスも実施しているので、ホームの利用を予定している場合、デイサービスを利用して職員や利用者顔馴染みの関係になってもらい、次の段階として1泊2日程度の体験宿泊をしてもらうようにして、なるべく緩やかな環境の変化で、自然に利用が開始出来るように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶこと、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員という立場を超えて、一緒に作業したり、外出したり、おしゃべりしたりする中で、利用者から生活の知恵や工夫を学ぶことが多く、職員は「ありがとう」と言うことを忘れないようにしている。利用者が不安になっている時には、職員がそっと傍に寄り添い、共に支えあう気持ちで関わっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけに対する表情・行動・動作などの反応を観察することにより、利用者の希望や意向を把握するように努めており、意思疎通が困難な場合は、家族とも相談しながら把握に努めている。以前に、体重が軽く浴槽で体が浮いてしまった利用者がいたので、職員がその利用者を抱いて湯船に入ることがあり、その後利用者が亡くなり、家族からその利用者が付けていた日記に「この汚い老人を職員が抱いてお風呂に入れてくれた、嬉しかった」と書いたあつたことを知らせてもらい大変驚き嬉しかったというエピソードがあり、人の思いを知ることは難しいと感じたという。職員は、体験の積み重ねも大事にして利用者に関わっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や意向は、日々の関わりの中で把握するように努めており、アセスメントやカンファレンス、申し送り、勉強会、連絡帳などから、職員の意見を積極的に取り入れ、計画作成者がまとめている。更に、まとめたものを職員や利用者、家族に提示し、意見をもらって調整し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月あるいは6ヶ月で見直しを行っており、状態に変化がないと思われる場合でも、利用者や家族の意見などを踏まえた見直しを行っている。また一人の職員の気づきも見逃すことなく連絡帳や申し送り簿で連絡し、ケース記録などに残して介護計画の見直しを行い支援が展開されている。		アセスメント用紙は独自に作成したもので分かりやすくなっているので、モニタリング用紙も使いやすいうように独自のものを作られてもいいのではないか。できれば職員が気軽にチェックできるものであると更に効果的ではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとともにデイサービスを実施している事業所であり、母体法人も多種の施設を持っているので、様々なサービスを活用しながら、入居中の利用者の緊急時の搬送、穏やかな生活の場の住み替え等、利用者の要望に応じて支援できる体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診してもらっており、基本的には家族が同行しているが、家族が都合が悪い場合などは職員が付き添い、臨機応変に対応している。往診の医師もホームに来てくれることから、受診の困難さや待ち時間等を考え、家族と相談して医師を変更する利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として、人的、物理的条件から看取りは行わない方針をとっているため、そのことを利用者や家族には十分理解してもらえるよう説明し、看取りが必要な場合にどうするか話し合うことにしており、切迫した状況になると家族の思いや考えが変わる場合が多いので、なるべく繰り返し話し合うようにしている。職員の気持ちとしては、利用者や家族が希望するなら、終末期のぎりぎりのところまでお世話したいという思いである。	○	高齢者は、急に重度化したり、終末を迎えてしまうことがあるので、その時の職員の対応や家族への説明についても準備をしておかれることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全国認知症高齢者グループホーム協会が出している利用者の権利、倫理要綱を職員に周知しており、訪問調査の際も、職員の利用者への言葉かけや対応は静かで利用者を尊重したものであった。食事中に尿意をもよおした利用者に対して、職員はそっと手引きをし排泄を済まされた。どうして分かったのかと聞くと、尿意があると、もじもじしたり、落ち着かなくなったりすることで、観察も対応も適切であった。また、記録類もきちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者が何時に起床しても、食事や入浴の希望がいつあっても対応する心構えているが、自然と食事や入浴の時間、活動の時間の流れが出来ている。時に予定外に外出を望まれる利用者が出た場合、ほかの事を後にまわして対応しているが、少し出かけると気持ちが落ち着きホームに帰るといった場合が多いようであった。また、レクリエーションなどについても、利用者の希望に応じて決めており、それぞれの希望に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞いて職員が作成しており、季節のものを多く取り入れている。職員と希望する利用者で買い物に出かけ、夕食と翌日の昼食までの食材を購入し、調理が得意な利用者が主に作り、利用者に任せておく場合と職員がリードする場合があるが、野菜の扱いなどは利用者から教えられることが多く、盛り付け、後片付けも一緒に行っている。時には花見弁当などを作って公園で食べたりするが、外食の機会は少ない。テレビを消してBGMを流し、良い雰囲気で行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるようにしているが、午前中に入る利用者が多く、介助は1対1で行っており、利用者の家族への思い、本音、不満などを聞き、利用者二人きりで十分にコミュニケーションが図れる時間となっている。また、入浴を拒否する利用者には、職員と一緒に入るようにすると拒否なく入浴してもらえる場合が多いので、職員と一緒に入り介助している。ゆず湯や菖蒲湯等の季節の湯を楽しんでもらうような支援も行っており、デイサービスの利用者からは滑石温泉と言われているので、温泉らしくみせるために暖簾をかけることを考えている。		温泉気分が充分味わえるように暖簾をかけることを検討されているようなので、ぜひ取組まれ、入浴の楽しみとしての要素を広げられるようにすると、より良い支援になると期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ピアノを弾ける利用者には弾いてもらったり、洗濯物を干したり、たたんだり、食器片付け、草むしり、廊下掃除など、利用者が女性ばかりなので家事の役割が多く、皆さん楽しみながら行っており、職員が利用者教えられることも多い。道具を使う場合には、使用後に様々なところに収納されるので、何事も一緒に行い、見守り支援に配慮している。他に楽しみごととして、ドライブや音楽療法なども取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は午後が多く、買い物には毎日出かけ、公園までの散歩やドライブも日常的に行っている。母体法人の大きい車が確保できた時は、博物館や美術館などへも出かけている。また、午前中に、今どうしても外出したいという希望があった場合は、午前の仕事を午後に行うようにして対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	20時～8時以外は玄関の鍵は掛けておらず、玄関にはセンサーを設置しているが、職員が利用者一人ひとりのくせや傾向を把握して見守りを行い、地域の方々と連携することにより、利用者の一人での外出に対応している。また、居室からは庭園に出ることができ、鍵をかけずに対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	出火の場所や時間、状況の想定を変えて、年に2～3回の消火、避難訓練を行っており、9月に行った訓練には、消防署員、郵便局長や民生委員、アパートの管理人にも参加してもらった。訓練の後は必ず反省会を行い、次回につなげるようしており、災害に備えて飲食料品・排泄具等を備蓄し、防災マニュアル、職員の連絡網も作成している。また、昨年害虫駆除剤を焚いて外出した折、煙を見て近所の人が電話をかけてくれ、心配をかけたが関心を示してもらい嬉しい出来事だった。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量、水分摂取量は、排泄状況や体重と共に一覧表にしており、振り返ってアセスメントする事ができるようにしている。食事の形態も刻み食や粥食など工夫しており、水分摂取に関しては誤嚥しやすい利用者のためにゼリーを作ったり、お茶にトロミをつけたりして、食事の際や食間に勧めている。栄養のバランスに関しては母体法人の栄養士に点検を依頼している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると広いリビングとダイニングがあり、一人用にも配置ができる大きなソファと食卓を置いている。静かで適度な明るさの空間で、廊下も広くゆったりとしており、壁は落ち着いた色合いで、ソファの配置を工夫することによって日光浴もでき、食後はテレビを消して静かなBGMを流し、居心地のよい空間がつくられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個性や好みに合わせて、ベット、使い慣れた物入れ、敷物、位牌などが置かれており、清潔に整理されている。また、共用空間と同じく、壁には家族写真などを飾っているが、賑やかに飾りたてることなく、落ち着いた雰囲気となっている。		